

アガへ No.62

総主事 堤 弘雄

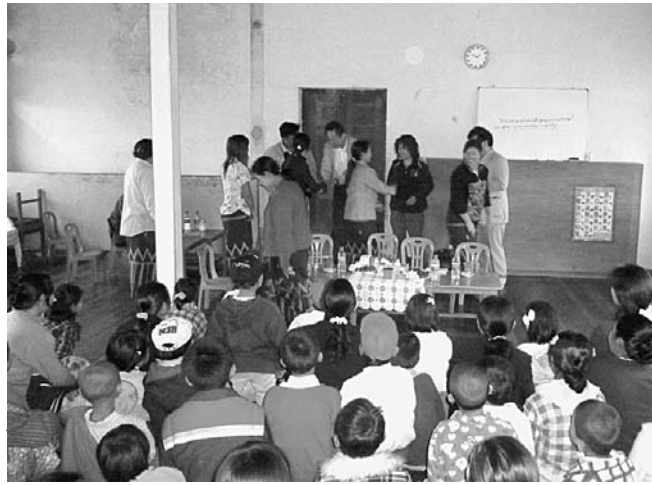
本当の自立

辞書には「自立」とは、「他への従属から離れて独り立ちすること。他からの支配や助力を受けずに、存在すること」とあります。子どもが育ち、親から離れて生活することも自立ですし、老年期を迎えて施設に入ることなく一人で、または、夫婦だけで老後を過ごすことも自立した生活と言えるかもしれません。

しかし、本当の自立にはもっと深い意味があるように思います。それは、人間が弱い存在であるという前提に立った自立です。私たちは今は元気でも、明日には病気や事故などで周りの人々のお世話にならなくてはならないかもしれない弱い存在です。身体だけではなく、小さな出来事で心を痛めてしまう弱い存在でもあります。そのことを前提として考えると、人間の自立に求められる能力の一つとして、必要に応じて他者に救いを求める力を持っていることが大切だと思うのです。

逆に、救いを求められたら、それに反して、手を差し延べる気持ちを持っていることも、人間の自立にとって必要かもしれません。人間が自立して生きていくことは自分または自分たちだけで生きていくのではなく、弱い人間同士が弱さを補い合って生きている人間社会であることを自覚しながら生きることではないでしょうか。

子どもたちの教育においても、大人が「自立」という言葉を誤解してしまい、誰にも頼ることをしない強い人間になることだけを求めたら、子どもが不幸です。身体や心が苦しい時は、周りに向かって「苦しい」と言える自立した存在に育ってほしいと思うのです。



健康チェックのため集まってきた子どもたちと交流

出発の1週間前に東日本大震災が発生し、後ろ髪を引かれる思いで出発しましたが、「がんばれ、東北、日本」と復興支援を行う一方で、ほんの少しでも「がんばれ、モガウンの子どもたち」というエールを送り続けたいと思います。
みなみYMCA運営委員長 森 博之

ミャンマーへ支援届けに
みなみYMCA 11月アジア運動

熊本YMCA「11月アジア運動」の一環で、みなみYMCAはミャンマー・モガウンYMCAとの交流を始めます。私たちは、「百聞は一見にしかず」と訪問計画を進め、職員と運営委員4名で3月18日(金)から5日間、現地を訪問してきました。

モガウンYMCAでは、麻薬やHIVの蔓延で両親を亡くした孤

児をケアしています。現地に到着して間もなく、ちょうど子どもたちが集まっているところに訪ねることができました。思った以上に大勢いて驚きましたが、中には本人もHIVに感染していて、能力がありながら、治療のために進学が難しい子どももいます。協力を呼びかけ提供してもらった古着を、各自のスーツケース一杯に詰め込み、毎日同じ服を着たままの子どもたちへ届けました。また、イベントの益金や寄せられた募金も渡すことができました。

ニューヨークの子どもたちとの
スキーキャンプ

東京フロストバレーYMCA パートナーシップが主催する、子どものスキーキャンプにリーダーとして参加しました。期間は2月から3月の約3週間で、ニューヨーク近郊に住む日本人家庭の子どもを対象としたプログラムです。キャンプには60名以上の子どもたちが参加しており、それにリーダーが加わって6歳から20代後半まで、実に幅広い年齢層の集団がキャンプで寝食をともにしました。



私は6歳から10歳までの女の子10名のグループリーダーを担当。



熊本YMCA国際ユースボランティアで活動していることがきっかけで、このような素晴らしい機会を与えていただき本当に感謝しています。
YMCA国際ユース ボランティア 井上 佳奈

子どもたちと一緒に生活していると、子どもたちが無意識に日本語と英語を絶妙に混ぜてコミュニケーションをとっていることに気づきました。独自の生活習慣や文化の中でも、子どもたちはうまく環境に適応し、上手にコミュニケーションをとっていました。
このような日々の気づきの一つひとつが、大学で児童教育を学んでいる私にとって貴重な体験になりました。将来自分が子どもたちを指導する立場になった時、必ず活かすことができる学びとなりました。

REPORT event

新入社員が介助体験

開催日/2011年4月2日(土)・6日(水)・8日(金)
開催場所/中央YMCAと周辺



新入社員対象のボランティア入門講座が開催され、9企業・団体の110名が参加しました。YMCAフイランソロピ協会の主催で16回目。NPOヒューマンネットワーク熊本の職員を講師に、新社会人たちは食事介助や車いす試乗を体験しました。参加者からは「障がい者や年配者、ベビーカーを押す母親や妊婦などには不自由で危険な要素が街にあふれていることに気づいた」「バリアフリーの大切さを体験した」といった感想が聞かれました。

企業ボランティア講座で認知症体験

開催日時/2011年4月18日(月)13時10分~15時
開催場所/九州電力熊本支店



九州電力熊本支店で開催されたボランティア講座。東部YMCAの職員で介護福祉士の吉田美華さんが講師を務め、社員20名が「認知症」について理解を深めました。「もの忘れ」と「認知症」の違いなどを学びながら、背中からカードを貼り、自分が何者かわからない不安や周囲が感じるもどかしさを体感するグループワークにも挑戦。吉田さんは、「家族だけで抱え込まず、介護サービスを受けるなど助けを借りることが大切。気持ちに余裕が生まれ、接し方にも余裕ができて、よい介護につながります」と締めくくりました。